自己評価調査票

高度・専門機能 リハビリテーション(回復期)Ver.1.0

病院名



はじめにお読みください

■「自己評価調査票」について

- 1 ファイルの加工(シートの分割、削除、印刷設定の変更など)は行わないでください。
- 2 表紙シートには、「病院名」のみ入力してください。
- 3 必要事項を記載し、期日までにファイル送受信システムよりご提出ください。

■ご回答いただくにあたって

1 院内で十分に合議したうえでご回答ください。

シートは領域ごとに分かれています。全ての評価項目(第1領域、第2領域、第3領域)で自己評価を実施してください。

2 評価については、I/II/III/IV/NA より、プルダウンで選択してください。

自己評価の対象項目は中項目です。各中項目には、中項目を評価するための視点(評価の視点)と、評価する際に参考とする要素 (評価の要素)を記載していますので、これらを参考に中項目を評価してください。

中項目は4段階で評価します。それらは次のような評価結果を表します。

- Ⅰ:秀でている
- Ⅱ:適切に行われている
- Ⅲ:高度・専門機能の水準に達している
- IV:高度・専門機能の水準に達しているとはいえない
 - NA:各項目で求められている事項が、貴院の役割や機能から考えた場合に必要ない

(当該事項が行われていなくても妥当である)と考えられる場合

(NA(非該当)=Not Applicable)

各中項目にはコメント欄を設けています。当該中項目に関連することで、貴院が特に取り組まれている点や課題と認識されている点 5 を、各々500文字以内(空白、改行を含む)でご記入ください。

記載する事がない場合は、「特記事項なし」とご記入ください。

1 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営	1.1.1 回復期リルビリテーション病機の運営に関する方針が明確でも 今回審査
1 1 良質なリハビリテーションを提供するための体制	自己評価 評点には (I / II / II / IV / NA) を記入
1 1 回復期リハビリテーション病様の運営に関する方針が明確である 【評価の視点】 ○リルビリテーションに関する場合、回復期リビリテーション病検における基本方針を明文化して、わかりやすく病院の内外に示し、病検運営の基本としていることを評価する。 【評価の考系】 ●リルビリテーションに関する場合の明文化 ●回復期リビリテーションに関する基本方針の明文化 ・回復期リビリテーションに集合をあてた場合・基本方針を構造する。 ・「現在の表示」 ・「表示して、表示している。 ・「現在の表示」 ・「現在の表示」 ・「現在の表示」 ・「現在の表示」 ・「現在の表示し	アピールしたい点 (SOO文字に収まるようにご記入(ださい) 課題と認識されている点 (SOO文字に収まるようにご記入(ださい)
跳集する項目 理念・基本方針の理解を深めるための教育・研修の計画や実績については、『1.3.3回複類リビリテーションに関する教育・研修を行っている』で評価する。	サーベイヤー記入欄(I / II / II / N / NA)

▮ ○自己評価

【プルダウンで表示されるI,II,III,IVの評価を選択してくだ】 → さい。

(未入力の場合、セルが赤になっています。)

<u>○アピールしたい点</u>

| ○課題と認識されている点

| 各500文字(空白・改行含む)以内でご記入ください。

- ■・サーベイヤーには印刷したものを送付します。
- ・文字数は、欄外(右)の文字カウントを参考にしてくだ | | さい。
- ・記載する事がない場合は、「特記事項なし」とご記入く ださい。

○サーベイヤー記入欄

サーベイヤー記入欄になりますので、 何も記載しないでください。

1 1 良質なリハビリテーションを提供するための体制

1 1 1 回復期リハビリテーション病棟の運営に関する方針が明確である

【評価の視点】

○リハビリテーションに関する理念、回復期リハビリテーション病棟における基本方針を明文化して、わかりやすく病院の内外に示し、病棟運営の基本としていることを評価する。

【評価の要素】

- ●リハビリテーションに関する理念の明文化
- ●回復期リハビリテーションに関する基本方針の明文化

☞本項目のポイント

- ◇回復期リハビリテーションに焦点をあてた理念・基本方針を確認する。
- ◇理念・基本方針が明文化され、リハビリテーションチームだけでなく、掲示やパンフレットなどで患者・家族とも共有されていることを確認する。
- ◇理念・基本方針には、国際生活機能分類 (ICF) に基づいた考え方が取り入れられていることを確認する。

関連する項目

理念・基本方針の理解を深めるための教育・研修の計画や実績については、『1.3.3回復期リハビリテーションに関する教育・研修を行っている』で評価する。

-	' ' ' '	י טנו געו נ		101110_H OH HAME X _ 1010_ 1 1101X	•
1	.1.1	回復期リ	ハビリテーショ	ン病棟の運営に関する方針が明確である	

回審査	
自己評価	評点には(I / II / III / IV / NA)を記入
アピールしたい点(500文字に収まる。	ようにご記入ください)
課題と認識されている点(500文字に	収まるようにご記入ください)
サーベイヤー記入欄(I / II / III	/ TV / NA)
J	/ 1 / NA /

1 1 良質なリハビリテーションを提供するための体制

1 1 2 良質な回復期リハビリテーション機能を発揮するために必要な人員を配置している

【評価の視点】

○理念・基本方針を実現するために、多職種からなる専門職の適切な人員配置が行われていることを評価する。

【評価の要素】

- ●リハビリテーション科専門医等の配置
- 看護師の配置
- 看護補助者の配置
- 療法士の配置
- 社会福祉士の配置
- 管理栄養士の配置
- その他関連職種の配置

☞本項目のポイント

- ◇入院患者の障害構成や病状などを踏まえて、切れ目のないリハビリテーションができるよう、適切な専門職が病棟 に配置されていることを確認する。
- ◇適切な人員配置数については診療報酬(回復期リハビリテーション病棟入院料)の上位区分で規定される施設基準を参考にする。
- ◇リハビリテーション科専門医の回復期リハビリテーション病棟での常勤配置を確認する。

関連する項目

各職種の専門性については2領域で評価する。

自己評価	審査	
題と認識されている点(500文字に収まるようにご記入ください)		評点には(I / II / III / IV / NA)を記入
	アピールしたい点(500文字に収まる	るようにご記入ください)
ーベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)	果題と認識されている点(500文字に	こ収まるようにご記入ください)
ーベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)		
ーベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)		
ーベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)		
ーベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)		
ーベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)		
ーベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)		
ーベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)		
ーベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)		
ーベイヤー記入欄(I / III / IV / NA)		
ーベイヤー記入欄(I / III / IV / NA)		
ーベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)		
ーベイヤー記入欄(I / III / IV / NA)		
ーベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)		
ーベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)		
	 ナーベイヤー記入欄(T/ TT / TT	T / TV / NA)
		_, _, ,,

1 1 良質なリハビリテーションを提供するための体制

1 1 3 リハビリテーションを提供するための組織体制が確立している

【評価の視点】

○リハビリテーションチームを構成する各種専門職の人的資源を活用して、良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織体制とその運営を評価する。

【評価の要素】

- ●病棟運営における管理責任者の役割の明確化
- ●回復期リハビリテーション病棟の組織体制
- ●病棟運営会議の設置
- ●効果的・効率的なサービス提供のための職員の勤務体制

☞本項目のポイント

- ◇本項目では、回復期リハビリテーション病棟の組織体制の確立、病棟運営における管理責任者の役割の明確化、病棟運営会議の設置、および効果的・効率的なサービス提供のための職員の勤務体制について評価する。
- ◇チーム医療の実践と円滑な運営に見合った組織図と、その組織図に沿った病棟運営会議やその他の会議・委員会が位置付けられ、開催されていることを確認する。
- ◇病棟運営会議のメンバーは多職種で構成されていることを確認する。
- ◇回復期リハビリテーション病棟の業務目標や活動実績などが検討・評価されていることを確認する。
- ◇会議の定期的な開催実績や検討内容については議事録で確認する。
- ◇病棟が円滑に運営されるよう、院内各部門との業務分担などの調整や病棟内の問題解決に取り組んでいることを確認する。
- ◇会議での検討結果が、病院の組織運営にも適切に反映されることは重要であり、病院の意思決定のプロセスを確認する。
- ◇会議での決定事項などの職員への周知方法について確認する。
- ◇複数の回復期リハビリテーション病棟を有する病院の場合は、病棟により脳血管疾患や運動器疾患などの疾患構成などの特性が異なることもあるため、病棟間の運営の整合性を保つための体制を確認する。

関連する項目

/-2. 局房	き・専門機能リハ(回復期)Ver1.0_自己評価調査票_2019_ v 1.0
全 同案杏	1.1.3 リハビリテーションを提供するための組織体制が確立している
今回審査 自己評価 1	評点には(I / II / III / IV / NA)を記入
アピールしたい点 (500文字に収まるよう	
課題と認識されている点(500文字に収ま	
課題と認識されている点(500文字に収ま	
	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
L	
サーベイヤー記入欄(I / II / III /	TV / NA)
	21 / 101 /
サーベイヤー記入欄(I/ II / III /	

1 2 安全で質の高いリハビリテーションを実践するための取り組み

1 2 1 患者の安全確保に向けた体制を整備している

【評価の視点】

○回復期リハビリテーションにおける、医療安全を組織的に推進する体制が整備され、必要な活動が 実践されていることを評価する。

【評価の要素】

- ●回復期リハビリテーションにおける安全管理体制
- ●安全確保に向けた情報収集と再発防止の取り組み
- ●発生頻度の高い事象への標準的な対応手順
- ●情報伝達・共有の仕組み
- ●安全確保の取り組みの有効性を評価する仕組み
- ●安全確保に向けた多職種対象の教育・研修

☞太項目	のポィ	/	L
	ひノハいつ	_	

- ◇積極的な訓練や療養生活の質向上と医療安全の両立を図るための活動や工夫などについて確認する。
- ◇医師、看護師や療法士など回復期リハビリテーションに関わるスタッフがチームとして安全管理を行う体制があることを確認する。
- ◇アクシデント・インシデント報告の件数や内容を確認し、どのような安全上の課題があり、それに対して組織的に対応していることを確認する。
- ◇転倒・転落の防止策は、単なる行動制限ではなく、活動を維持しうる方策が検討されていることを確認する。
- ◇再発防止策については、多角的な分析の結果に基づき検討され、病棟生活や療法時間および自宅復帰後の 防止策に反映されていることを確認する。
- ◇安全確保に関する多職種での情報確認の仕組みを確認する。
- ◇安全確保の取り組みの有効性を評価する仕組みを確認する。

				_			
関	連	す	Š	項	į	8	

7-2.高	度・専門機能リハ(回復期)Ver1.0_自己評価調査票_2019_ v 1.0
	1.2.1 患者の安全確保に向けた体制を整備している
今回審査 	
自己評価	評点には(I / II / III / IV / NA)を記入
アピールしたい点(500文字に収まるよ	うにこ記入ください)
課題と認識されている点(500文字に収	
11 / - =7.7 488 / - / /	(7)((2)2)
サーベイヤー記入欄(I / II / III /	'IV / NA)

1 2 安全で質の高いリハビリテーションを実践するための取り組み

1 2 2 患者の急変時に適切に対応できる仕組みを整備している

【評価の視点】

○患者の急変時や緊急時への対応方針と手順の整備、および研修や訓練が適切に行われていることを評価する。

【評価の要素】

- ●リハビリテーション・ケアにおける急変リスクの把握と管理
- ●発生頻度が高い急変に関する標準的な対応手順
- ●発生頻度が高い急変を想定した対応訓練(シミュレーション)

☞本項目のポイント

- ◇疾病リスクが評価され、その情報がチームで共有されていることを確認する。
- ◇発生頻度が高い急変について、病棟、療法室、屋外などにおける対応手順を確認する。
- ◇発生頻度が高い急変を想定した対応訓練の取り組みを確認する。

関連する項目

	7-2.高度・専門機能リハ(回復期)Ver1.0_自己評価調査票_2019_ v 1.0.xlsx
	1.2.2 患者の急変時に適切に対応できる仕組みを整備している
回審査	
∸ □≕/≖	===

7四番且	
自己評価	評点には(I / II / III / IV / NA)を記入
アピールしたい点(500文字に収まるように	
プロ がひたい派(300文子になるもろにも	
課題と認識されている点(500文字に収まる	ようにこ記入くたさい)
サーベイヤー記入欄(I / II / III / I\	/ / NA)
	, , NA,
	I
i	

1 2 安全で質の高いリハビリテーションを実践するための取り組み

1 2 3 安全で安心できる療養環境の整備に努めている

【評価の視点】

○回復期リハビリテーション病棟における安全で安心な療養環境の整備状況を評価する。

【評価の要素】

- 医療関連感染を予防するためのリハビリテーション・ケアの標準的な手順
- ●患者の離院・離棟防止、部外者の侵入防止などの保安
- ●病室・廊下・階段・トイレ・洗面所・浴室・食堂の安全性
- ●障害に対応したコール装置
- ●車椅子・歩行器等の安全に配慮した点検・整備と衛生管理

☞本項目のポイント

- ◇インフルエンザやノロウイルス感染発生時の対応などを確認する。
- ◇安全重視や感染対策の理由から療法が著しく制限されていないことを確認する。
- ◇病院全体の保安体制だけではなく、回復期リハビリテーション病棟や療法室における離院・離棟および部外者侵入防止への対応を確認する。
- ◇病室環境が、様々な障害に対応した構造になっていることを確認する。
- ◇患者の障害に応じた多様なコールスイッチが用意され、使用されていることを確認する。
- ◇車椅子、歩行器、杖などの点検や修理依頼の手順が明確になっていることを確認する。

関連する項目

今回審査	1.2.3 安全で安心できる療養環境の整備に努めている
自己評価	評点には(I / II / III / IV / NA)を記入
アピールしたい点(500文字に収まるように	ご記入ください)
課題と認識されている点(500文字に収まる	るようにご記入ください)
サーベイヤー記入欄(I / II / III / I	V / NA)

1 3 質改善に向けた取り組み

1 3 1 回復期リハビリテーションの質改善に必要なデータを収集し活用している

【評価の視点】

○回復期リハビリテーションの質改善に向けたデータ収集・集計の仕組みが確立しており、その分析・評価が行われていることを評価する。

【評価の要素】

- ●退院時サマリーの作成
- ●データ収集・集計の仕組み
- ●情報の管理体制と責任者
- ●収集したデータの分析・評価
- ●分析結果の活用や公表
- ●退院後のフォローアップ評価

☞本項目のポイント

- ◇退院時サマリーが、医師、看護師、療法士などにより作成されていることを確認する。
- ◇回復期リハビリテーション病棟の運営に関するデータが適切に集積されていることを確認する。
- ◇集積されたデータが、病棟運営や業務改善に利用される仕組みがあることを確認する。
- ◇データの分析や評価結果が公表されていることを確認する。ホームページの場合は医療広告ガイドラインや各施 設のポリシーに基づいていることを確認する。
- ◇退院後の患者の状況の把握やその活用について確認する。

関連する項目

自院の課題の把握および対応については『1.3.2 回復期リハビリテーションに関する自院の課題の把握と対応策を検討している』で確認する。

-2.同反	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(凹後期)	Ver1.U_日 C計	「Ш詗且示_∠∪	19_ V 1.U.XI
1.3.1	回復期リハビリテー	・ションの質ご	女善に必要なデ-	-タを収集し活用	刊している

9回審査	
自己評価	評点には(I / II / III / IV / NA)を記入
アピールしたい点(500文字に収	まるようにご記入ください)
課題と認識されている点(500文	字に収まるようにご記入ください)
11 41 100 / - / - /	
 サーベイヤー記入欄(I / II /	III / IV / NA)

1 3 質改善に向けた取り組み

1 3 2 回復期リハビリテーションに関する自院の課題の把握と対応策を検討している

【評価の視点】

○回復期リハビリテーションに関する自院の運営上の課題を把握して、改善に向けた対応策を検討していることを評価する。

【評価の要素】

- ●運営上の課題の把握
- ●対応策の立案と実施
- ●対応策の見直しと修正

☞本項目のポイント

- ◇課題把握のプロセスが明確であることを確認する。
- ◇経営会議または運営会議などにおいて病棟運営に関する課題が適切に把握されていることを確認する。
- ◇運営会議などで決定された組織の方針に沿って、病棟運営が円滑に行われていることを確認する。

関連する項目

病棟運営に関する質改善のためのデータ収集・集計の仕組みについては、『1.3.1 回復期リハビリテーションの質改善に必要なデータを収集し活用している』で評価する。

	1.3.2 凹後期	リハビリテーション	に関する目	院の課題	の把握と	対応策	を検討し
審査							
自己評価		評点には	(I / II	/ III /	IV / N	NA)を	:記入
アピールしたい点(500文字	えに収まるようにこ	記入ください)					
果題と認識されている点(5	00文字に収まる。	ようにご記入くだ	さい)				
ナーベイヤー記入欄(I/	II / III / IV	/ NA)				•	
	,						

1 3 質改善に向けた取り組み

1 3 3 回復期リハビリテーションに関する教育・研修を行っている

【評価の視点】

○回復期リハビリテーションに関する体系的な教育・研修を行っており、各職種の専門性や多職種によるチーム力を高める仕組みがあることを評価する。

【評価の要素】

- ●体系的な教育・研修の実施と見直し
- ●計画的な研究活動
- ●専門性を高める仕組み
- ●チーム力を高める相互啓発・研鑽に向けた取り組み
- ●患者評価を適正に行うための教育・研修

☞本項目のポイント

- ◇各職種のキャリアパスについて確認する。
- ◇認定看護師や認定療法士などの資格取得への組織的な取り組みを確認する。
- ◇年次計画の策定や研修費用の予算化がなされていることを確認する。
- ◇学会や研修会の参加、学会発表や論文の実績を確認する。
- ◇多職種による横断的な参加型研修の実施状況について確認する。

関連する項目

各職種の質向上に向けた取り組みについては、『2.x.4 〇〇は質向上に向けた活動に取り組んでいる』で評価する。 患者の初期評価については、『3.1.1 初期評価を適切に行っている』で評価する。

	<u> </u>	-2.高度・専門機能リハ(回復期)Ver1.0_自己評価調査票_2019_ v 1.0.
		1.3.3 回復期リハビリテーションに関する教育・研修を行っている
今回審査		
	評価	評点には(I / II / III / IV / NA)を記入
アピールし	たい点(500文字に収 ま	るようにご記入ください)
課題と認識	 はされている点(500文字	に収まるようにご記入ください)
#_~~47		TT / TV / NA)
שייים ו		III / IV / NA /

1 4 地域の医療機関等との連携とリハビリテーションの継続に向けた取り組み

1 4 1 急性期病院と円滑に連携している

【評価の視点】

○回復期リハビリテーション病棟としての役割を果たすために急性期病院と円滑に連携していることを 評価する。

【評価の要素】

- ●地域の急性期を担う医療機関に関する情報の把握
- ●地域の医療機関への情報の発信
- ●入院患者の円滑な受け入れ
- ●急性疾患発症時の迅速な連携
- ●退院時に急性期病院(紹介病院)へのフィードバック
- ●地域の実情に沿った連携体制の構築

☞本項目のポイント

- ◇患者の紹介経路を確認する。
- ◇本項目の「急性期病院」には自院の急性期病棟やグループ内の急性期病院を含む。
- ◇地域連携クリニカル・パス(クリティカル・パス)の運用実績やその推移を確認する。
- ◇地域連携クリニカル・パス(クリティカル・パス)適応例以外の患者の受け入れ状況を確認する。
- ◇紹介から入院までの日数やその短縮のための取り組みについて確認する。
- ◇急性期病院との連絡会議や合同カンファレンスの実施状況について確認する。
- ◇患者急変時などに急性期病院に転院が必要な場合の連携の状況を確認する。
- ◇急性期病院へ退院時報告などで患者転帰のフィードバックがされていることを確認する。
- ◇急性期・回復期間の連携における地域課題を把握し、改善に向けた取り組みを検討・実施していることを確認する。

盟	連	₫	ス	陌	日
ᇇ	迚	"	~ J		

	1.4.1 急性期病院と円滑に連携している
今回審査	
自己評価	評点には(I / II / III / IV / NA)を記入
アピールしたい点(500文字に収まるように	ご記入ください)
課題と認識されている点(500文字に収まる	
課題と認識されている点(500文字に収まる	らようにご記入ください)
サーベイヤー記入欄(I / II / III / IV	V / NA)
サーベイヤー記入欄(I / II / III / IV	

1 4 地域の医療機関等との連携とリハビリテーションの継続に向けた取り組み

1 4 2 自宅復帰後のリハビリテーション・ケアの継続に向けて地域サービス提供機関等と円滑に連携している

【評価の視点】

○自宅復帰後のリハビリテーション・ケアの継続に向けて、自院での体制構築や地域サービス提供機 関等と円滑に連携していることを評価する。

【評価の要素】

- ●退院後のリハビリテーション・ケア継続のための仕組み
- ●担当ケアマネジャーを含む、地域サービススタッフ等との連携
- ●退院後のフォローアップをする仕組み
- ●地域の実情に沿った連携体制の構築

☞本項目のポイント

- ◇退院後にリハビリテーション・ケアを継続しない患者に対して、相談支援体制が構築されていることを確認する。
- ◇訪問診療・訪問看護など地域サービススタッフとの連携状況を確認する。
- ◇独居者、老々介護の患者への工夫を確認する。
- ◇介護保険適用外の場合は自立支援サービス利用の実績や、そのための連携がなされていることを確認する。
- ◇退院後の生活状況の把握やフォローアップの仕組みを確認する。
- ◇地域の実情に合わせて自宅生活を支援するリハビリテーション・ケアの提供体制を確認する。

関連する項目

自宅復帰の可能性の積極的な検討の実施については、『3.4 自宅復帰に向けた多職種による協働』で評価する。

ピールしたい点 (500文字に収まるようにご記入ください)	H C:=#1	評点には(I / II / III / IV /	/ NA)を記入
風と認識されている点(500文字に収まるようにご記入ください)	自己評価 ポールしたい点(5		, MY) G即V
	C 77072V-3 (3	のの人子になるるのにと聞入べたという	
-ペイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)	逆に心誠とれている	点(300文子に収るるようにと記入へたとい)	
-ペイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)			
-ベイヤー記入欄(I/II/ III / IV / NA)			
-ベイヤー記入欄(I/II/ III / IV / NA)			
-ベイヤー記入欄(I / III / IV / NA)			
-ベイヤー記入欄(I / III / IV / NA)			
-ベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)			
-ベイヤー記入欄(I/ II / III / IV / NA)			
-ベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)			
-ベイヤー記入欄(I/ II / III / IV / NA)			
-ベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)			
-ベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)			
-ベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)			
-ベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)			
-ベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)			
-ベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)			
-ベイヤー記入欄(I / III / IV / NA)			
	ベイヤー記入欄((I / II / III / IV / NA)	
		(I / II / III / IV / NA)	
	ーベイヤー記入欄((I / II / III / IV / NA)	
	ーベイヤー記入欄((I / II / III / IV / NA)	
	 ーベイヤー記入欄((I / II / III / IV / NA)	
	ーベイヤー記入欄((I / II / III / IV / NA)	
	ーベイヤー記入欄((I/II/III/IV/NA)	
	-ベイヤー記入欄((I / II / III / IV / NA)	
	ーベイヤー記入欄((I / II / III / IV / NA)	
	ーベイヤー記入欄((I / II / III / IV / NA)	
	ーベイヤー記入欄((I / II / III / IV / NA)	
	-ベイヤー記入欄((I / II / III / IV / NA)	

1 4 地域の医療機関等との連携とリハビリテーションの継続に向けた取り組み

1 4 3 自宅復帰が困難な患者のリハビリテーション・ケアの継続に向けて施設等と円滑に連携している

【評価の視点】

○自宅復帰が困難な患者のリハビリテーション・ケアの継続に向けて病院や施設等と円滑に連携して いることを評価する。

【評価の要素】

- ●地域の医療機関や居宅系施設、介護福祉施設等の情報収集と把握
- ●地域の医療機関や居宅系施設、介護福祉施設等との連携と調整
- ●自宅復帰困難な場合の連携体制の構築

☞本項目のポイント

- ◇退院先リストを確認する。
- ◇患者・家族の個別性を尊重した療養先の選択肢を提示し、自己決定を支援していることを確認する。
- ◇リハビリテーション・ケアを継続するために、療養病床や施設に退院する患者に対して、どのような取り組みを実施しているかを確認する。
- ◇連携先の施設などに対し、リハビリテーション・ケアの質向上に向けたサポートを体系的に行っていることを確認する。

関連する項目

自宅復帰の可能性の積極的な検討の実施については、『3.4 自宅復帰に向けた多職種による協働』で評価する。

自己評価 ピールしたい点 (500文字	
ピールしたい点(500文字	評点には(I / II / III / IV / NA)を記入
_ ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	こ収まるようにご記入ください)
	0文字に収まるようにご記入ください)
ーベイヤー記入欄(I/I	/ III / IV / NA)

2 1 回復期リハビリテーション病棟における医師の専門性の発揮

2 1 1 医師は専門的な役割・機能を発揮している

【評価の視点】

○チームにおける医師の役割が明確で、その専門性が発揮されていることを評価する。

【評価の要素】

- ●原疾患等に対する医学的な検査と診断
- ●再発、合併症、併存症のリスクの評価と対応
- ●機能障害やADL能力の回復予測
- ●個別的なリハビリテーション処方と看護ケア指示
- ●他診療科との連携

☞本項目のポイント

- ◇病棟担当医はリハビリテーション医学の専門家としてだけでなく、プライマリ・ケアの立場から患者管理を行っている ことを確認する。
- ◇病棟担当医がリハビリテーション科専門医ではない場合は、病院内の常勤専門医との連携により、リハビリテーション医療の専門性が確保できる体制が確立していることを確認する。
- ◇医師の専門性と病棟での受け持ち人数・体制を確認する。

関連する項目

医師の配置状況については、『1.1.2 良質な回復期リハビリテーション機能を発揮するために必要な人員を配置している』で評価する。

回審査	
自己評価	評点には(I / II / III / IV / NA)を記入
アピールしたい点 (500文字に収まるよ	うにご記入ください)
課題と認識されている点(500文字に収	はまるようにご記入ください)
14 AN / In = 7 7 188 / T / TT / TTT	(TV (NA)
サーベイヤー記入欄(I / II / III /	/ IV / NA)

2 1 回復期リハビリテーション病棟における医師の専門性の発揮

2 1 2 医師は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている

【評価の視点】

○医師が病棟など院内での生活、および退院後の患者の実生活を把握し、医学的な観点から指導・支援を行っていることを評価する。

【評価の要素】

- ●病棟など院内での生活の把握
- ●リハビリテーションの進捗に関する患者・家族への説明
- ●原疾患の再発防止や合併症の予防に関する患者・家族への説明と指導

☞本項目のポイント

- ◇院内での生活状況やリハビリテーションの進捗を踏まえた上で、自宅復帰後の生活が可能になるよう、医学的立場から指導・支援していることを確認する。
- ◇患者・家族が理解できるような指導・支援の工夫がなされているか確認する。

関連する項目

回審査	
自己評価	評点には(I / II / III / IV / NA)を記入
アピールしたい点(500文字に収まるよ	さうにご記入ください)
課題と認識されている点(500文字に収	双まるようにご記入ください)
サーベイヤー記入欄(I / II / III /	/ IV / NA)

2 1 回復期リハビリテーション病棟における医師の専門性の発揮

2 1 3 医師はチーム医療の実践に適切に関与している

【評価の視点】

○医師が多職種協働によるチーム医療を実践していることを評価する。

【評価の要素】

- ●個々の患者に対する総合的なチーム目標の立案
- ●患者の病態に応じた医学的視点からのスタッフへの指導・支援
- ●協働に向けたスタッフ指導とチームビルディング

☞本項目のポイント

- ◇医師が主体的にチームビルディング(チーム作り)を行っているか確認する。
- ◇実際のカンファレンス実施の状況や検討内容の記録を確認するとともに、病棟担当医の役割やリーダーシップに関する考えなどを確認する。

関連する項目

チームとしての総合的な取り組みについては、『3.1.2 リハビリテーション計画を適切に立案している』『3.2.1 各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している』で評価する。

自己評価 評点には(I / II / III / IV / NA)を記入 ビールルたい点 (500文字に収まるようにご記入ください) -ベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)	審査	
題と認識されている点(500文字に収まるようにご記入ください)		
	アピールしたい点(500文字に収まるように	ご記入ください)
-ベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)	果題と認識されている点(500文字に収まる	ようにご記入ください)
-ベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)		
-ベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)		
-ベイヤー記入欄(I / III / III / IV / NA)		
-ベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)		
-ベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)		
-ベイヤー記入欄(I / III / IV / NA)		
-ベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)		
-ベイヤー記入欄(I / III / IV / NA)		
-ベイヤー記入欄(I / III / IV / NA)		
-ベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)		
-ベイヤー記入欄(I / III / IV / NA)		
-ベイヤー記入欄(I / III / IV / NA)		
-ベイヤー記入欄(I / III / IV / NA)		
	ナーベイヤー記入欄(I / II / III / I\	V / NA)

2 1 回復期リハビリテーション病棟における医師の専門性の発揮

2 1 4 医師は質向上に向けた活動に取り組んでいる

【評価の視点】

○医師が回復期リハビリテーションの質向上に向けた改善活動を行っていることを評価する。

【評価の要素】

- ●回復期リハビリテーションの質向上に向けたスタッフへの指導・支援
- ●研究活動への取り組み
- ●業務改善活動への協力

☞本項目のポイント

- ◇本項目では現場でのリハビリテーション医療の質の向上に向けた活動状況を評価する。
- ◇病棟担当医としての質および回復期リハビリテーションチーム全体の質の向上に向けた取り組みを評価する。
- ◇学会や研修会の参加、学会発表や論文発表の実績を確認する。

関連する項目

病棟運営に関する質改善のためのデータ収集・集計の仕組みについては、『1.3.1 回復期リハビリテーションの質改善に必要なデータを収集し活用している』で評価する。

回復期リハビリテーションに関する教育・研修体制については、『1.3.3 回復期リハビリテーションに関する教育・研修を行っている』で評価する。

2.1.4 医師は質向上に向けた活動に取り組んでいる

審査	
自己評価	評点には(I / II / III / IV / NA)を記入
アピールしたい点(500文字に収まるよ	うにご記入ください)
関と認識されている点(500文字に収	フキストうにご言っ ふください)
成というないのは、「のでは、このなりになる。	(なるの)にこ。6万人(たこり)
·-ベイヤー記入欄(I / II / III /	/ IV / NA)

2 2 回復期リハビリテーション病棟における看護・介護職の専門性の発揮

2 2 1 看護・介護職は役割・専門性を発揮している

【評価の視点】

○チームにおける看護・介護職の役割が明確で、その専門性が発揮されていることを評価する。

【評価の要素】

- ●健康状態、ADL、療養環境の評価
- ●看護・介護の計画と実践
- ●医療機器・介護器具の活用

☞本項目のポイント

- ◇職務分掌などで、看護師・介護福祉士の役割を確認する。
- ◇看護・介護マニュアルが必要に応じて見直しされていることを確認する。
- ◇国際生活機能分類(ICF)に基づいた障害像の把握がされていることを確認する。
- ◇現場における環境設定への具体的な取り組みを確認する。
- ◇看護・介護計画の立案と展開は、見直しも含め、看護・介護の記録(退院時サマリーを含む)から確認する。
- ◇自宅復帰後に想定される生活状況を評価・分析していることを確認する。
- ◇退院後の生活を踏まえた病棟での医療機器・介護器具などの活用状況を確認する。

関連する項目

看護・介護職の配置状況については、『1.1.2 良質な回復期リハビリテーション機能を発揮するために必要な人員を配置している』で評価する。

. ,		(M)	V C 1 1 . U_			L 37 _ L 0	113_	V 1.U.	•
2.	2.1	看護	・介護	哉は役割	・専門	性を発	揮して	こいる	

回審査	
自己評価	評点には(I / II / III / IV / NA)を記入
アピールしたい点(500文字に収まるよ	うにご記入ください)
課題と認識されている点(500文字に収	なまるようにご記入ください)
サーベイヤー記入欄(I / II / III /	/ IV / NA)

2 2 回復期リハビリテーション病棟における看護・介護職の専門性の発揮

2 2 看護・介護職は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている

【評価の視点】

○看護・介護職が病棟など院内での生活、および退院後の患者の実生活を把握し、実際的な指導・支援を行っていることを評価する。

【評価の要素】

- ●病棟など院内での生活の評価と介入
- ●入院前・退院後の実生活を踏まえた指導
- ●患者および家族・介護者への心理的ケア

☞本項目のポイント

- ◇患者および家族・介護者などへの指導が退院後の生活を考慮したものであることを確認する。
- ◇看護・介護計画で、心理的ケアの内容を確認する。

関連する項目

チームとしての全体的な取り組みについては、『3.2.1 各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している』で評価する。

~	7 1 7 1/20 170	(LIX) VOI 1:0_LI ON LINE 1 - 2013_ V 1:0:
2.2.	2 看護・វ	護職は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている

審査	
自己評価	評点には(I / II / III / IV / NA)を記入
アピールしたい点(500文字に収ま	るようにご記入ください)
果題と認識されている点(500文字	『に拟まるようにご記入くたさい)
/ L. = 1 7 188 / - / - / - / -	(T) (A) A
ナーベイヤー記入欄(I/ II / I	III / IV / NA)

2 2 回復期リハビリテーション病棟における看護・介護職の専門性の発揮

2 2 3 看護・介護職はチーム医療の実践に適切に関与している

【評価の視点】

○看護・介護職が多職種協働によるチーム医療を実践していることを評価する。

【評価の要素】

- ●チーム目標設定への協働
- ●他職種からの情報収集と発信
- ●多職種協働によるケアの実践

☞本項目のポイント

- ◇カンファレンスにおいてチーム目標の立案に看護・介護職が共に積極的に参画していることを確認する。
- ◇他職種の介入状況を把握し、看護・介護計画の見直しに活かしていることを確認する。
- ◇患者の健康状態やリスクの情報を日常的に他職種と共有していることを確認する。
- ◇患者情報を他職種と共有し、実生活の評価・介入を協働で行っていることを確認する。
- ◇看護・介護職間で患者の情報伝達・共有を行う仕組みを確認する。

関連する項目

チームとしての総合的な取り組みについては、『3.1.2 リハビリテーション計画を適切に立案している』『3.2.1 各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している』で評価する。

回審査	
自己評価	評点には(I / II / III / IV / NA)を記入
アピールしたい点 (500文字に収まるようにご	記入ください)
課題と認識されている点(500文字に収まるよ	うにご記入ください)
サーベイヤー記入欄(I / II / III / IV	/ NA)
	,,

2 2 回復期リハビリテーション病棟における看護・介護職の専門性の発揮

2 2 4 看護・介護職は質向上に向けた活動に取り組んでいる

【評価の視点】

○看護・介護職が回復期リハビリテーションの質向上に向けた改善活動を計画的に行っていることを 評価する。

【評価の要素】

- ●看護・介護の質向上に向けた取り組み
- ●看護・介護に関する研究活動への取り組み
- ●業務運営に関する改善活動の実践

☞本項目のポイント

- ◇看護・介護の質向上に向けた取り組みが行われていることを確認する。
- ◇各種専門・認定資格取得者のその役割を確認する。
- ◇院内外の研究会、学会発表および論文発表などの実績を確認する。
- ◇具体的な業務改善の実績と成果を確認する。

関連する項目

病棟運営に関する質改善のためのデータ収集・集計の仕組みについては、『1.3.1 回復期リハビリテーションの質改善に必要なデータを収集し活用している』で評価する。

回復期リハビリテーションに関する教育・研修体制については、『1.3.3 回復期リハビリテーションに関する教育・研修を行っている』で評価する。

2.2.4 看護・介護職は質向上に向けた活動に取り組んでいる

今回審査	
自己評価	評点には(I / II / III / IV / NA)を記入
アピールしたい点(500文字に収まるように	ご記入ください)
課題と認識されている点(500文字に収まる	らようにご記入ください)
サーベイヤー記入欄(I / II / III / IV	V / NA)

2 3 回復期リハビリテーション病棟における療法士の専門性の発揮

2 3 1 P 理学療法士は役割・専門性を発揮している

【評価の視点】

○チームにおける理学療法士の役割が明確で、その専門性が発揮されていることを評価する。

【評価の要素】

- ●運動機能の検査の実施
- ●運動・動作の評価・分析
- ●理学療法の計画と実践
- ●補装具・移動補助具などの活用

☞本項目のポイント

- ◇標準的方法を用いて体系的に評価していることを確認する。
- ◇活動・参加に志向した計画が総合的に立案されていることを確認する。
- ◇作業療法士などとの役割の分担・調整が適切に行われていることを確認する。

関連する項目

理学療法士の配置状況については、『1.1.2 良質な回復期リハビリテーション機能を発揮するために必要な人員を配置している』で評価する。

•	(四及州)	VC11.0_日 C H I I I I I I I I I I I I I I I I I I	V 1.U.
2	2.3.1.P 理	学療法士は役割・専門性を発揮して	ている

回審査	
自己評価	評点には(I / II / III / IV / NA)を記入
アピールしたい点 (500文字に収まるようにご	記入ください)
課題と認識されている点(500文字に収まるよ	うにご記入ください)
サーベイヤー記入欄(I / II / III / IV	/ NA)
	,,

2 3 回復期リハビリテーション病棟における療法士の専門性の発揮

2 3 10 作業療法士は役割・専門性を発揮している

【評価の視点】

○チームにおける作業療法士の役割が明確で、その専門性が発揮されていることを評価する。

【評価の要素】

- ●生活状況の把握
- ●生活機能の評価と分析
- ●作業療法の計画と実践
- ●自助具・補助具などの活用

☞本項目のポイント

- ◇標準的方法を用いて体系的に評価していることを確認する。
- ◇生活機能改善につながる計画が包括的に立案されていることを確認する。
- ◇理学療法士などとの役割の分担・調整が適切に行われていることを確認する。

関連する項目

作業療法士の配置状況については、『1.1.2 良質な回復期リハビリテーション機能を発揮するために必要な人員を配置している』で評価する。

(H	1011:0_1 On MM 110:N	
2.3.1.0 作	業療法士は役割・専門性を発揮している	

回審査	
自己評価	評点には(I / II / III / IV / NA)を記入
アピールしたい点(500文字に収まるよ	うにご記入ください)
課題と認識されている点(500文字に収	なまるようにご記入ください)
サーベイヤー記入欄(I / II / III /	/ IV / NA)

2 3 回復期リハビリテーション病棟における療法士の専門性の発揮

2 3 1 S 言語聴覚士は役割・専門性を発揮している

【評価の視点】

○チームにおける言語聴覚士の役割が明確で、その専門性が発揮されていることを評価する。

【評価の要素】

- ●コミュニケーション能力の検査・評価・分析
- 摂食・嚥下機能の検査・評価・分析
- ●言語聴覚療法、摂食・嚥下療法の計画と実践
- ●コミュニケーション機器などの活用

☞本項目のポイント

- ◇標準的方法を用いて体系的に評価していることを確認する。
- ◇生活機能改善につながる計画が総合的に立案されていることを確認する。
- ◇高次脳機能など、他職種と重複する領域について、リハビリテーション・ケアにおける役割の分担・共有が適切に行われていることを確認する。

関連する項目

言語聴覚士の配置状況については、『1.1.2 良質な回復期リハビリテーション機能を発揮するために必要な人員を配置している』で評価する。

		VC11.0_日 C F1 I I I I I I I I I I I I I I I I I I	V 1.U.	Ì
2	2.3.1.S 言語	吾聴覚士は役割・専門性を発揮し	ている	

自己評価 評点には(I / II / III / IV / NA)を記 アピールしたい点(500文字に収まるようにご記入ください)	入
課題と認識されている点(500文字に収まるようにご記入ください)	
サーベイヤー記入欄(I/ II / III / IV / NA)	

2 3 回復期リハビリテーション病棟における療法士の専門性の発揮

2 3 2 療法士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている

【評価の視点】

○理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が病棟など院内での生活、および退院後の患者の実生活を把握し、実際的な指導・支援を行っていることを評価する。

【評価の要素】

- ●病棟など院内での生活の評価と介入
- ●入院前・退院後の実生活を踏まえた指導・支援

☞本項目のポイント

- ◇実生活に則した指導・支援が行われていることを確認する。
- ◇自宅・在宅復帰を実現するための個別性のある取り組みを確認する。

関連する項目

チームとしての全体的な取り組みについては、「3.2.1 各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している」で評価する。

審査	
自己評価	評点には(I / II / III / IV / NA)を記入
アピールしたい点(500文字に収まるように	ご記入ください)
果題と認識されている点(500文字に収まる	らようにご記入ください)
ナーベイヤー記入欄(I / II / III / I	V / NA)

2 3 回復期リハビリテーション病棟における療法士の専門性の発揮

2 3 療法士はチーム医療の実践に適切に関与している

【評価の視点】

○理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が多職種協働によるチーム医療を実践していることを評価する。

【評価の要素】

- ●チーム目標設定への協働
- ●他職種からの情報収集と発信
- ●多職種協働による療法の実践

☞本項目のポイント

- ◇カンファレンスにおいてチーム目標の立案に積極的に参画していることを確認する。
- ◇他職種の介入状況を把握し、各療法計画の見直しに活かしていることを確認する。
- ◇患者情報を他職種と共有し、実生活の評価・介入を協働して行っていることを確認する。
- ◇療法士間(同職種の代行スタッフを含む)で患者の情報伝達・共有を行う仕組みを確認する。

関連する項目

チームとしての総合的な取り組みについては、『3.1.2 リハビリテーション計画を適切に立案している』『3.2.1 各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している』で評価する。

2.3.3 療法士はチーム医療の実践に適切に関与している

時点には(I / II / III / IV / NA)を記入 アビールルたい点(500文字に収まるようにご記入ください)	回審査	
課題と認識されている点(500文字に収まるようにご記入ください)		
	アピールしたい点(500文字に収まるよう	らにご記入ください)
サーベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)	課題と認識されている点(500文字に収む	まるようにご記入ください)
サーベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)		
サーベイヤー記入欄(I/ II / III / IV / NA)		
サーベイヤー記入欄(I/ II / III / IV / NA)		
サーベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)		
サーベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)		
サーベイヤー記入欄(I/II/ III / IV / NA)		
サーベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)		
サーベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)		
サーベイヤー記入欄(I/ II / III / IV / NA)		
サーベイヤー記入欄(I / III / IV / NA)		
サーベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)		
サーベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)		
サーベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)		
		(IV / NA)
	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	

2 3 回復期リハビリテーション病棟における療法士の専門性の発揮

2 3 4 療法士は質向上に向けた活動に取り組んでいる

【評価の視点】

○理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が回復期リハビリテーションの質向上に向けた改善活動を 計画的に行っていることを評価する。

【評価の要素】

- ●療法の質向上に向けた取り組み
- ●療法に関する研究活動への取り組み
- ●業務運営に関する改善活動の実践

☞本項目のポイント

- ◇各療法士の質向上に向けた取り組みが行われていることを確認する。
- ◇各種専門・認定資格取得者の役割を確認する。
- ◇院内外の研究会、学会発表および論文発表などの実績を確認する。
- ◇具体的な業務改善の実績と成果を確認する。

関連する項目

病棟運営に関する質改善のためのデータ収集・集計の仕組みについては、『1.3.1 回復期リハビリテーションの質改善に必要なデータを収集し活用している』で評価する。

回復期リハビリテーションに関する教育・研修体制については、『1.3.3 回復期リハビリテーションに関する教育・研修を行っている』で評価する。

,	<i>-</i>	\ <u></u>	112///1/	VOI1.0_	_H O#I			. V I.O	•/\\
	2	.3.4	療法士	は質向	上に向け	た活動に	取り組ん	でいる	

今回審査	
自己評価	評点には(I / II / III / IV / NA)を記入
アピールしたい点(500文字に収まるようにご	『記入ください)
課題と認識されている点(500文字に収まる。	ようにご記入ください)
サーベイヤー記入欄(I / II / III / IV	/ / NA)

55

2 4 回復期リハビリテーション病棟における社会福祉士の専門性の発揮

2 4 1 社会福祉士は役割・専門性を発揮している

【評価の視点】

○チームにおける社会福祉士の役割が明確で、その専門性が発揮されていることを評価する。

【評価の要素】

- ●個々の入院患者のニーズの把握
- ●患者のニーズに適した社会資源の把握と活用
- ●継続的な相談対応と援助・支援の実践

☞本項目のポイント

- ◇個々の患者のカンファレンス記録や経過記録、業務日誌などで、社会福祉士の活動が入退院支援だけでなく、 医療ソーシャルワーク業務指針に定める6つの業務(心理的社会的問題の解決援助・退院援助・受診受療援助・経済的問題の解決援助・社会復帰援助・地域活動)が実践されていることを確認する。
- ◇原則として、入院患者全員に関わっていることを確認する。
- ◇患者の希望や退院支援の進捗状況などの支援経過が、チーム内で共有される仕組みがあることを確認する。
- ◇家族関係や関係機関・社会資源などの社会背景を確認の上、患者・家族のニーズを把握していることを確認する。
- ◇入院中に、複数回にわたり患者・家族のニーズを把握していることを確認する。

関連する項目

社会福祉士の配置状況については、『1.1.2 良質な回復期リハビリテーション機能を発揮するために必要な人員を配置している』で評価する。

今回審査	
自己評価	評点には(I / II / III / IV / NA)を記入
アピールしたい点 (500文字に収まるように	ご記入ください)
課題と認識されている点(500文字に収まる	5ようにご記入ください)
サーベイヤー記入欄(I / II / III / IV	V / NA)

2 4 回復期リハビリテーション病棟における社会福祉士の専門性の発揮

2 4 2 社会福祉士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている

【評価の視点】

○社会福祉士が病棟など院内での生活、および退院後の患者の実生活を把握し、実際的な援助・ 支援を行っていることを評価する。

【評価の要素】

- ●病棟など院内での生活の把握と支援
- ●入院前・退院後の実生活を踏まえた援助・支援

☞本項目のポイント

- ◇入院前の実生活や生活課題に加え、入院中の個々の患者の心身機能や社会背景を踏まえ、個別性を尊重した計画立案・支援が行われているかを確認する。
- ◇病棟生活を踏まえた指導・支援を行うため、病棟での業務内容を確認する。

関連する項目

チームとしての全体的な取り組みについては、『3.2.1 各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している』で評価する。

_	1 (,	י טנו געו נ	(HIX/VI)	101110_H C			
2.	4.2	社会福祉	上士は患者の	実生活を踏ま	えた指導・支	援を行って	いる

]審査	
自己評価	評点には(I / II / III / IV / NA)を記入
アピールしたい点(500文字に収まる。	ようにご記入ください)
課題と認識されている点(500文字に	
PARTICIPATION CONTRACTOR OF THE PARTICIPATION OF TH	
サーベイヤー記入欄(I/ II / III	/ IV / NA)

2 4 回復期リハビリテーション病棟における社会福祉士の専門性の発揮

2 4 3 社会福祉士はチーム医療の実践に適切に関与している

【評価の視点】

○社会福祉士が多職種協働によるチーム医療を実践していることを評価する。

【評価の要素】

- ●チーム目標設定への協働
- ●他職種からの情報収集と発信
- ●院内外の多職種協働による援助・支援の実践

☞本項目のポイント

- ◇カンファレンスにおいてチーム目標の立案に積極的に参画していることを確認する。
- ◇他職種の介入状況を把握し、援助計画の見直しに活かしていることを確認する。
- ◇入院前から状況に応じ院外の関係機関と連携し、必要な支援の進捗状況を患者・家族・チームにフィードバック していることを確認する。

関連する項目

チームとしての総合的な取り組みについては、『3.1.2 リハビリテーション計画を適切に立案している』『3.2.1 各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している』で評価する。

回審査	
自己評価	評点には(I / II / III / IV / NA)を記入
アピールしたい点(500文字に収まるよ	うにご記入ください)
課題と認識されている点(500文字に収	なまるようにご記入ください)
サーベイヤー記入欄(I / II / III /	/ IV / NA)

2 4 回復期リハビリテーション病棟における社会福祉士の専門性の発揮

2 4 4 社会福祉士は質向上に向けた活動に取り組んでいる

【評価の視点】

○社会福祉士が回復期リハビリテーションの質向上に向けた改善活動を計画的に行っていることを評価する。

【評価の要素】

- ●援助技術・支援の質向上に向けた取り組み
- ●ソーシャルワークに関する研究活動への取り組み
- ●業務運営に関する改善活動の実践
- ●組織・地域レベルのソーシャルワーク実践

☞本項目のポイント

- ◇援助技術・支援の質向上に向けた取り組みが行われていることを確認する。
- ◇各種専門・認定資格取得者の役割を確認する。
- ◇院内外の研究会、学会発表および論文発表などの実績を確認する。
- ◇具体的な業務改善の実績と成果を確認する。
- ◇院内外の会議への参加などを通し、患者のニーズに合致した組織づくり・地域の保健医療福祉システムづくりに向けた取り組み状況を確認する。

関連する項目

病棟運営に関する質改善のためのデータ収集・集計の仕組みについては、『1.3.1 回復期リハビリテーションの質改善に必要なデータを収集し活用している』で評価する。

回復期リハビリテーションに関する教育・研修体制については、『1.3.3 回復期リハビリテーションに関する教育・研修を行っている』で評価する。

1/30 HE 7 '	. (四及州)			<u>/_ v 1.0.</u> /i
2.4.4	社会福祉士	は質向上に向け	けた活動に取り組ん	んでいる

回審査	
自己評価	評点には(I / II / III / IV / NA)を記入
アピールしたい点(500文字に収まるように	ご記入ください)
課題と認識されている点(500文字に収まる	ようにご記入ください)
サーベイヤー記入欄(I / II / III / IV	V / NA)
J VII BUNDA (I) III/ III/ I	V / NG /

2 5 回復期リハビリテーション病棟における管理栄養士の専門性の発揮

2 5 1 管理栄養士は役割・専門性を発揮している

【評価の視点】

○チームにおける管理栄養士の役割が明確で、その専門性が発揮されていることを評価する。

【評価の要素】

- ●栄養状態の評価
- ●栄養療法の計画と実践
- ●摂食・嚥下機能を考慮した食事提供

☞本項目のポイント

- ◇入院時の栄養スクリーニングの基準が設けられていることを確認する。
- ◇入院時に患者の栄養状態が総合的に評価されていることを確認する。
- ◇特に栄養状態に問題がある患者に対して、週1回以上のアセスメントを実施し、全患者に対して月1回以上のスクリーニングが実施されていることを確認する。
- ◇病前の食生活や嗜好の情報収集が行われ、それらを考慮した対応が行われていることを確認する。
- ◇患者の生活機能を踏まえて、個別性のある栄養管理が行われていることを確認する。
- ◇患者の栄養状態の評価に基づいた栄養管理計画が立案され、適切な食事環境が提供されていることを確認する。
- ◇他職種と患者の栄養管理計画や実際の食事摂取状況などが共有されており、それが栄養管理計画に反映されていることを確認する。
- ◇栄養に問題のある患者に対し標準的介入方法が整備されていることを確認する。
- ◇学会分類などによる多段階の嚥下調整食の提供体制が整えられていることを確認する。
- ◇摂食・嚥下機能の状態が把握され、段階的に分類された嚥下調整食が体系的に提供されていることを確認する。
- ◇経口摂取だけでなく、経管栄養・静脈栄養管理の場合にも必要栄養量の算出や、これらと経口摂取とを組み合わせた栄養管理計画の立案がなされていることを確認する。

関連する項目

管理栄養士の配置状況については、『1.1.2 良質な回復期リハビリテーション機能を発揮するために必要な人員を配置している』で評価する。

	3/ 10:116_H OIT MINDERS 1 1:00.
2.5.1	管理栄養士は役割・専門性を発揮している

今回審査	
自己評価	評点には(I / II / III / IV / NA)を記入
アピールしたい点 (500文字に収まるよう	にご記入ください)
課題と認識されている点(500文字に収ま	まるようにご記入ください)
L	
サーベイヤー記入欄 (I / II / III /	IV / NA)

2 5 回復期リハビリテーション病棟における管理栄養士の専門性の発揮

2 5 2 管理栄養士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている

【評価の視点】

○管理栄養士が病棟など院内での生活、および退院後の患者の実生活を把握し、実際的な指導・ 支援を行っていることを評価する。

【評価の要素】

- ●病棟など院内での食事を中心とした生活の評価と介入
- ●入院前・退院後の食生活を踏まえた指導・支援

☞本項目のポイント

- ◇実生活を踏まえた個別性のある指導・支援が行われていることを確認する。
- ◇患者情報の収集については、管理栄養士がすべてを直接実施する必要はないが、看護師など他職種が得た情報を把握できていることを確認する。
- ◇必要に応じて栄養管理情報提供書を作成し、退院後の栄養ケアを担う担当者に送付していることを確認する。

関連する項目

チームとしての全体的な取り組みについては、『3.2.1 各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している』で評価する。

66

_	.,,	3 1770 130 5	(_ F		
2	.5.2	管理栄	養士は患者の	実生活を踏る	まえた指導・	支援を行っ	ている

自己評価 評点には(I / II / III / IV / NA)を記入 アピールしたい点(500文字に収まるようにご記入ください)
アピールしたい点(500文字に収まるようにご記入ください)
課題と認識されている点(500文字に収まるようにご記入ください)
サーベイヤー記入欄(I / III / IV / NA)

2 5 回復期リハビリテーション病棟における管理栄養士の専門性の発揮

2 5 3 管理栄養士はチーム医療の実践に適切に関与している

【評価の視点】

○管理栄養士が多職種協働によるチーム医療を実践していることを評価する。

【評価の要素】

- ●チーム目標設定への協働
- ●他職種からの情報収集と発信
- ●多職種協働による栄養管理の実践

☞本項目のポイント

- ◇カンファレンスにおいてチーム目標の立案に積極的に参画していることを確認する。
- ◇他職種の介入状況を把握し、栄養管理・指導の計画の見直しに活かしていることを確認する。
- ◇栄養サポートチーム(NST)による栄養管理が行われている場合は、患者を担当するチームへの関与の状況などを確認する。

関連する項目

チームとしての総合的な取り組みについては、『3.1.2 リハビリテーション計画を適切に立案している」『3.2.1 各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している』で評価する。

時点には(I / II / III / IV / NA)を記入 アピールしたい点(500文字に収まるようにご記入ください)	回審査	
課題と認識されている点(500文字に収まるようにご記入ください)	自己評価	評点には(I / II / III / IV / NA)を記入
	アピールしたい点(500文字に収まるよ	うにご記入ください)
サーベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)	課題と認識されている点(500文字に収	はるようにご記入ください)
サーベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)		
サーベイヤー記入欄(I/II/ III / IV / NA)		
サーベイヤー記入欄(I/II/ III / IV / NA)		
サーベイヤー記入欄(I/II/ III / IV / NA)		
サーベイヤー記入欄(I/ II / III / IV / NA)		
サーベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)		
サーベイヤー記入欄(I/ II / III / IV / NA)		
サーベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)		
サーベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)		
サーベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)		
サーベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)		
サーベイヤー記入欄(I / III / IV / NA)		
サーベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)		
サーベイヤー記入欄(I / II / III / IV / NA)		
	サーベイヤー記 3 期 (T / TT / TTT	/ TV / NA)
		/ IV / IVA /

2 5 回復期リハビリテーション病棟における管理栄養士の専門性の発揮

2 5 4 管理栄養士は質向上に向けた活動に取り組んでいる

【評価の視点】

○管理栄養士が回復期リハビリテーションの質向上に向けた改善活動を計画的に行っていることを評価する。

【評価の要素】

- ●栄養管理の質向上に向けた取り組み
- ●栄養管理に関する研究活動への取り組み
- ●業務運営に関する改善活動の実践

☞本項目のポイント

- ◇栄養管理の質向上に向けた取り組みが行われていることを確認する。
- ◇各種の専門・認定資格取得者の配置やその役割を確認する。
- ◇院内外の研究会、学会発表および論文発表などの実績を確認する。
- ◇具体的な業務改善の実績と成果を確認する。
- ◇食事について、検食や患者アンケートなどで意見を収集し改善を図っていることを確認する。

関連する項目

病棟運営に関する質改善のためのデータ収集・集計の仕組みについては、『1.3.1 回復期リハビリテーションの質改善に必要なデータを収集し活用している』で評価する。

回復期リハビリテーションに関する教育・研修体制については、『1.3.3 回復期リハビリテーションに関する教育・研修を行っている』で評価する。

2007		
2.5.4	管理栄養士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	,

自己評価 アピールしたい点(500文字に収まるようにご記		/ II / III / IV	/ / NA)を記 <i>刀</i>	
アピールしたい点 (500文字に収まるようにご訂	3入ください)			
課題と認識されている点(500文字に収まるよう	うにご記入ください	1)		
U /- =7.7.488 / - / / / / / / /	/ ALA \			
サーベイヤー記入欄(I / II / III / IV /	NA)			

3 チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

3 1 初期評価とリハビリテーション計画の立案

3 1 1 初期評価を適切に行っている

【評価の視点】

○患者の全体像が国際生活機能分類(ICF)などの利用で把握されており、標準的な方法により評価され、多職種で共有されていることを評価する。

【評価の要素】

- ●リハビリテーション実施前の系統的な評価の実施
- ●健康状態や傷病に関する評価
- ●心身機能・構造に関する評価
- ●活動・参加に関する評価
- ●環境・個人因子に関する評価
- ●各専門職種による正確な評価の実施

☞本項目のポイント

- ◇それぞれの職種が同職種内では共通の指標を用いて、初期評価を系統的に行っていることを確認する。
- ◇環境や個人因子、心理的側面、家族の評価が行われていることを確認する。
- ◇初期評価が多職種で共有されていることを確認する。
- ◇カンファレンスや診療録・リハビリテーション総合実施計画書などの記録から具体的に確認する。
- ◇薬剤師やその他の関連職種(歯科衛生士、臨床心理士、義肢装具士など)の役割を確認する。

関連する項目

患者の評価を適正に行うための教育・研修については、『1.3.3 回復期リハビリテーションに関する教育・研修を行っている』で評価する。

今回審査	
自己評価	評点には(I / II / III / IV / NA)を記入
アピールしたい点(500文字に収まるようにご	記入ください)
課題と認識されている点(500文字に収まるよ	こうにご記入ください)
出 かわ =1.1 相 / t / tt / tt / tt / tt	(NA)
サーベイヤー記入欄(I / II / III / IV	/ NA)

3 1 初期評価とリハビリテーション計画の立案

3 1 2 リハビリテーション計画を適切に立案している

【評価の視点】

○初期評価に基づいたリハビリテーション計画が多職種で協議・立案され、患者・家族に説明されて いることを評価する。

【評価の要素】

- ●国際生活機能分類 (ICF) に基づく患者の全体像や生活機能の把握と課題整理
- ●入院早期のカンファレンスの開催
- ●包括的で具体的なリハビリテーション・ケア計画の立案
- ●患者・家族の意見・要望を反映した方針・目標の設定
- ●患者・家族への説明と意向確認

☞本項目のポイント

- ◇国際生活機能分類(ICF)に基づいて各職種が患者の全体像を把握し、包括的なリハビリテーション・ケア計画が作成されていることを確認する。
- ◇立案された計画と目標が、入院後速やかに家族に説明され、同意を得た上で、リハビリテーションが開始されていることを確認する。
- ◇クリニカル・パス (クリティカル・パス) の活用など、多職種協働が実践されるための指標や基準があることを確認する。
- ◇カンファレンスや診療記録・リハビリテーション総合実施計画書などの記録から具体的に確認する。
- ◇薬剤師やその他の関連職種(歯科衛生士、臨床心理士、義肢装具士など)の役割を確認する。

回審査	
自己評価	評点には(I / II / III / IV / NA)を記入
アピールしたい点(500文字に収まるようにこ	ご記入ください)
課題と認識されている点(500文字に収まる。	ようにご記入ください)
サーベイヤー記入欄(I / II / III / IV	/ / NA)

3 2 専門職による回復期リハビリテーション・ケアの実施

3 2 1 各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している

【評価の視点】

○質が高く安全なリハビリテーション・ケアが各職種の協働によって適切に行われていることを評価する。

【評価の要素】

- ●入院当日からの実施
- ●質の高いリハビリテーション・ケアの実施
- ●必要な量のリハビリテーション・ケアの実施
- ●日常生活の自立に向けたケア
- ●リスク評価を踏まえたリハビリテーション・ケアの安全な実施
- ●個別リハビリテーション時間以外のリハビリテーション・ケア介入の工夫

☞本項目のポイント

- ◇医師によるリハビリテーション・ケアに関する指示が適宜出されていることを確認する。
- ◇個別リハビリテーションの提供量を確認する。
- ◇日常生活の自立に向けたリハビリテーションが行われていることを確認する。
- ◇共有された目標に対する各職種の介入の分担と協働を確認する。
- ◇その日の予定が患者に分かりやすく提示されていることを確認する。
- ◇個別リハビリテーション以外の、患者の活動性を高める活動を確認する。
- ◇カンファレンスや診療記録・リハビリテーション総合実施計画書などの記録から具体的に確認する。
- ◇薬剤師やその他の関連職種(歯科衛生士、臨床心理士、義肢装具士など)の役割を確認する。

3.2.1	各職種により患者に必	必要なリハビリテ	ーション・ケ	アを実施	している

回審査	
自己評価	評点には(I / II / III / IV / NA)を記入
アピールしたい点(500文字に収まるよう)	こご記入ください)
細節に窓端ナヤアハス上 / 200六字に収ま	こフトニニマデココノゼナい
課題と認識されている点(500文字に収ま	るようにと記入ください)
サーベイヤー記入欄(I / II / III /	TV / NA)
9一八十十二記入1帳(1) 111 / 111 /	IV / NA)

3 2 専門職による回復期リハビリテーション・ケアの実施

3 2 2 リハビリテーションの進捗状況を共有している

【評価の視点】

○リハビリテーションの最新の進捗状況をスタッフ間で共有する仕組みがあり、患者・家族へ伝えられて いることを評価する。

【評価の要素】

- ●実施当日の患者情報の把握
- ●評価結果やケア・訓練状況の記録
- ●他職種への情報伝達
- ●患者・家族への連絡・相談

☞本項目のポイント

- ◇各職種が個別リハビリテーションを含めた患者の1日のスケジュールを把握していることを確認する。
- ◇病棟全体のシステムとしての情報共有だけでなく、療法士間(同職種の代行スタッフを含む)との情報共有についても確認する。
- ◇ケア内容やADL能力、各療法の内容や自立度、リスク情報などが情報共有されているかどうかを確認する。
- ◇カンファレンスや診療記録・リハビリテーション総合実施計画書などの記録から具体的に確認する。
- ◇薬剤師やその他の関連職種(歯科衛生士、臨床心理士、義肢装具士など)の役割を確認する。

回審査	
自己評価	評点には(I / II / III / IV / NA)を記入
アピールしたい点(500文字に収まるようにこ	ご記入ください)
課題と認識されている点(500文字に収まる。	ようにご記入ください)
サーベイヤー記入欄(I / II / III / IV	/ / NA)

3 多職種による課題の共有と対応

3 3 1 定期的な情報共有による新たな課題の評価・検討を行っている

【評価の視点】

○定期的な情報共有を通じて、個々の患者の新たな課題の評価・検討をチームで行っていることを 評価する。

【評価の要素】

- ●定期的なチームカンファレンスの開催
- ●必要に応じた臨時・専門カンファレンスなどの開催
- ●到達度に応じた目標の更新と入院期間の設定
- ●目標達成に向けた、多職種による具体的な介入についての検討
- ●カンファレンス記録の活用と共有
- カンファレンスの内容の患者・家族への説明

☞本項目のポイント

- ◇自宅復帰に難渋するなど困難事例のカンファレンスについても確認する。
- ◇患者・家族へ説明の内容が医師の関与のもとチーム内で統一される仕組みがあることを確認する。
- ◇各職種の専門性に応じた具体的介入について確認する。
- ◇国際生活機能分類(ICF)に準じて状態把握ができていることを確認する。
- ◇カンファレンスが単なる情報交換の場ではなく、課題解決型の議論が出来ているかどうかを確認する。
- ◇カンファレンスや診療記録・リハビリテーション総合実施計画書などの記録から具体的に確認する。
- ◇次回のカンファレンス開催までの各職種の役割分担や協働介入が共有されていることを確認する。
- ◇薬剤師やその他の関連職種(歯科衛生士、臨床心理士、義肢装具士など)の役割を確認する。

審査	SISTE XEXISES ON INTROCUMENTAL INCOMES CAN
自己評価	評点には(I / II / III / IV / NA)を記入
アピールしたい点(500文字に収まる。	ようにご記入ください)
!題と認識されている点(500文字に	収まるようにご記入ください)
ベイヤー記入欄(I / II / III	/ IV / NA)

3 多職種による課題の共有と対応

3 3 2 新たな課題の解決に向けたリハビリテーション・ケアを実施している

【評価の視点】

○個々の患者の新たな課題の解決に向けたリハビリテーション・ケアをチームで実践していることを評価 する。

【評価の要素】

- ●定期的なチームカンファレンスで見直されたリハビリテーション・ケアの実践
- ●臨時・専門カンファレンスなどで把握された新たな課題に対する個別の介入

☞本項目のポイント

- ◇カンファレンスや診療記録・リハビリテーション総合実施計画書などの記録から具体的に確認する。
- ◇新たな課題への対応について確認する。
- ◇薬剤師やその他の関連職種(歯科衛生士、臨床心理士、義肢装具士など)の役割を確認する。

回審査	
自己評価	評点には(I / II / III / IV / NA)を記入
アピールしたい点(500文字に収まるよ	うにご記入ください)
課題と認識されている点(500文字に収	まるようにご記入ください)
サーベイヤー記入欄 (I / II / III /	/ IV / NA)

3 4 自宅復帰に向けた多職種による協働

3 4 1 自宅復帰とその維持に必要な患者固有の課題の評価・検討を行っている

【評価の視点】

○自宅復帰とその維持に向けて必要な患者固有の課題について、具体的な評価と検討をチームで 行っていることを評価する。

【評価の要素】

- ●家族・介護者等の介護能力などの評価
- ●自宅復帰後の患者のADL 目標
- →入院早期・退院前の家屋評価
- ●外出・外泊による評価
- ●退院後の生活スケジュールや余暇活動の検討
- ●自宅復帰難渋など困難事例へのチームとしてのチャレンジ
- ●医療機器・福祉用具の必要性の評価

☞本項目のポイント

- ◇自宅復帰困難と思われたが、自宅復帰が成功した事例などを確認する。
- ◇自宅復帰実現のための評価がチームで活用されていることを確認する。
- ◇カンファレンスや診療記録・リハビリテーション総合実施計画書などの記録から具体的に確認する。
- ◇薬剤師やその他の関連職種(歯科衛生士、臨床心理士、義肢装具士など)の役割を確認する。

	3/~	טנו סגו ליו ני	(<u> </u>
3.4.1	自宅	復帰とその	維持に必要な思	は者固有の課題の評価	・検討を行っている

回審査	
自己評価	評点には(I / II / III / IV / NA)を記入
アピールしたい点(50	0文字に収まるようにご記入ください)
課題と認識されている点	(500文字に収まるようにご記入ください)
サーベイヤー記入棚()	I / II / III / IV / NA)
	1/ 11/ 111/ IV/ NA/

3 4 自宅復帰に向けた多職種による協働

3 4 2 自宅復帰とその維持に向けた課題の解決のための具体的な取り組みを行っている

【評価の視点】

○自宅復帰とその維持に必要な診療、リハビリテーション・ケアが継続的に提供されるように具体的な課題解決への取り組みが行われていることを評価する。

【評価の要素】

- ●基礎疾患や合併症等の医学的管理・ケアや生活指導の継続への配慮
- ●獲得されたADLの維持のための患者・家族等への指導・支援
- ●家屋改修や福祉用具の使用に関する助言・指導・支援
- 医療・介護・福祉関係者への情報提供と協力
- ●社会資源の活用

☞本項目のポイント

- ◇自宅復帰と自宅生活の継続に患者・家族が主体的に取り組めるよう、チームで包括的に支援していることを確認する。
- ◇必要な医療が漏れなく継続されていることを確認する。
- ◇退院前に自施設あるいは地域のサービスと具体的に連携していることを確認する。
- ◇患者・家族に適した方法で社会資源の情報が提供され、活用に向けた自己決定・調整業務などの支援を行っていることを確認する。
- ◇カンファレンスや診療記録・リハビリテーション総合実施計画書などの記録から具体的に確認する。
- ◇薬剤師やその他の関連職種(歯科衛生士、臨床心理士、義肢装具士など)の役割を確認する。

	7-2.	・専門機能リハ	(回復期 <i>)</i> V	/er1.0_目己評	<u> </u>	.9_ v 1.0.xI
3.4	4.2 自宅復帰	とその維持に向けた	た課題の解決	のための具体的	な取り組みを行	うっている

<u> </u>	Li-1, 1-, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1
自己評価	評点には(I / II / III / IV / NA)を記入
ピールしたい点(500文字に4	収まるようにご記入ください)
題と認識されている点(500文	文字に収まるようにご記入ください)
-7717一起入佩(1 / 11 /	· III / IV / NA /